

### 内子町議会議員研修会

このたびの東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます。一日も早い復興を、心からお祈りします。この震災を受け、議会では4月19日、総務常任委員の主宰で伊方発電所に関する視察研修を行いました。その内容をお知らせします。



敷地内から、海を挟んで原発の全体を望む

### 伊方発電所を視察して

総務常任委員 山上 芳子

毎日のように被災地の情報が流れる中、避難住民の皆さんの

生活や不安は、肉体的にも精神的にも限界がきていると感じます。強烈な揺れ、地割れ、大津波、そして原発事故…。その爪痕はまだ深く、癒えることはありません。津波と原発事故の二重の被害に遭った地域もあります。住民の不安や混乱を招かないように、十分な配慮が必要です。現状に沿った支援を切に願います。

この原発事故の後、伊方発電所の視察を行いました。以前にも行ったことはありますが、厳重体制に緊張が走りました。ここには協力会社の社員も含まれて約1700人が働いています。点検時には最大で2500人になるそうです。敷地面積は

約86万平方メートル。甲子園球場の約20倍に当たり、そのうち15万平方メートルは海面埋立となっています。

設備は1〜3号機まであり、1、2号機の出力はそれぞれ56万6000キロワット、3号機は89万キロワットです。運転開始は1号機が昭和52年9月30日、2号機が同57年3月19日、3号機が平成6年12月15日。1号機は稼働から34年を迎えようとしています。これまで以上に設備の監視、定期的な点検を行い、安全性を常に確認してほしいものです。

伊方発電所の沖には、伊予灘の海底を東西に走る中央構造線断層帯の一部である「敷地前面海域断層群」があります。これは「横ずれ断層」であり、海底の上下動が比較的小さいことから、大きな津波が起こりにくいと言われています。そこで同発電所では、中央構造線断層帯が動いた場合に発生する津波の高さを約2.6mと想定しています。仮に満潮時に発生したとしても、海抜約10mにある敷地が冠水することはないと考えています。

ということですが。

しかし福島では「想定外」の大津波が襲いました。正直、不安を感じます。同発電所では、過去の地震や周辺の活断層、地質などを詳しく調査し、考えられる最大の地震を想定して基準となる地震動を決定した上で、原子炉容器など重要な設備は余裕をもって耐震設計しています。さらに大型震動台を用いて想定を上回る揺れに対する試験を行い、十分な安全を確認しているということです。

また今回の震災を踏まえ、①電源車6台を配備②海水ポンプモーターの予備品を手配③非常用ディーゼル発電機の機能確認④蒸気駆動補助給水ポンプの機能確認⑤ディーゼル駆動消火ポンプの機能確認⑥全ての電源喪失を想定した運転員の特別訓練などの対策を行っています。

原発の問題には、誰もが神経をとがらせています。これを機に、全国的にしっかりと安全点検を行っていかねばなりません。原発は日本のエネルギー源として大きな役割を果たしていますが、常に「安全」というこ

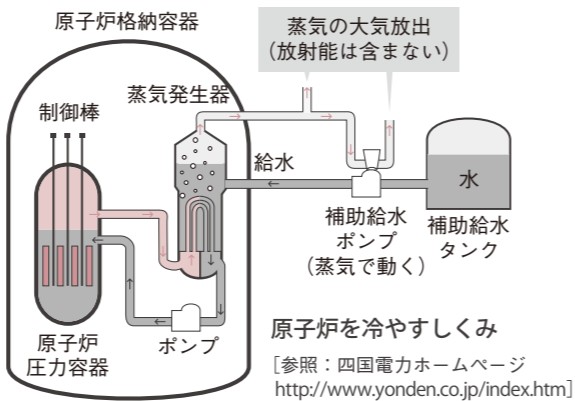
とが問われます。絶対にこの安全を犠牲にはしてはいけません。今回の視察を通して、再度考えさせられました。

### 伊方原発視察研修を終えて

総務常任委員 山崎 正史

今回の研修では、伊方原発の安全性と自然災害による危機管理のあり方を課題としました。福島原発と比べた場合、伊方原発の特徴は次のとおりです。

- (1) 緑色片岩という強固な岩盤の上に立地し、地盤がしっかりしている。
- (2) 伊予灘の海底に走る「中央構造線断層帯」は横ずれ断層で海水の上下動が小さく、満潮時に津波が発生しても海抜約10mにある伊方発電所の敷地が冠水することはないと考えられる。(福島発電所沖の断層はプレート境界型で、海水の上下動が大きい)
- (3) 加圧水型炉原子力発電を採用している。(福島原発は沸騰水型炉原子力発電)



このことから、伊方原発は安全であるという説明でした。

しかし今回の福島原発事故のように想定外の自然災害が発生し、運転機能の電源を失い、さらに非常用ディーゼル発電機が停止して原子炉を冷却する機能をなくした際にどのような対策を講じているかが最重要です。伊方原発では、今回の事故を受け、新たな電源車の配備、機器の点検、非常事態を想定した訓練など、さまざまな対策を行っています。

また今後の対応として、①外部電源の強化などによる恒久的

な電源の確保②非常時に必要な機器などへの冷却水の確保③原子炉建屋の水密扉の設置など、津波などへの浸水対策を、順に進めていくとことです。

いずれにしても、今回のような大惨事を二度と起こすことのないよう、安全確保に万全を期してほしいと思います。

また万が一、今回のような事故が伊方原発内で発生した場合の内子町の防災対策にも、問題を提起します。

町内では、自治防災組織が結成され、自治会単位で自然災害に対する訓練などが行われていますが、原発事故となると全く別問題です。近隣の市町と連携すると同時に、四国電力(株)と協議を重ね、できるだけ早く原発事故の緊急防災マニュアルを作成する必要があります。

### ◎正副議長が決まりました

5月13日に開かれた臨時会で正副議長と常任委員会委員が選任されました。



土井繁則副議長 林 博 議長

### 委員会(◎委員長、○副委員長)

議会運営委員会	産業建設常任委員会	文教厚生常任委員会	総務常任委員会
◎才野 俊夫	◎武知 正昭	◎武知 正昭	◎山田 博文
◎土井 繁則	◎山上 芳子	◎森並 隆幸	◎中田 厚寛
◎大木 雄	◎寺岡 浩壽	◎宮岡 徳男	◎池田 洋助
	◎中本 勇	◎富永 眞吾	◎大木 雄
	◎寺岡 保	◎下野 安彦	◎林 博
		◎山本 徹	◎寺岡 保